

[2020]九州大学情報統括本部年報 : 2020年度

<https://hdl.handle.net/2324/4741344>

出版情報 : 九州大学情報統括本部年報. 2020, pp.1-, 2021-12-01. Information Infrastructure Initiative, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :



2020 年度年報の発行にあたって



情報統括本部長 石橋 達朗

情報統括本部は、九州大学の全構成員（学生および教職員）に教育・研究・事務・診療に必要な共通の情報基盤・情報サービスを提供することを目的として2007年に発足しました。情報基盤研究開発センター、事務局情報システム部、および附属図書館を中心に関連する部局から参加する教員、技術職員と事務職員からなる部局横断的な全学的組織で、継続的かつ安定的な活動を行っています。

2020年10月1日の本部長就任に当たり、九州大学の情報セキュリティ強化を第一の重要事項と考え、CIO (Chief Information Officer)とCISO (Chief Information Security Officer)を分離し、CIOには情報担当の谷口倫一郎理事・副学長をあて、副本部長も務めてもらうこととし、CISOは岡村耕二副学長に務めてもらうことにしました。また、本部の中核を担う副CIOは、小野謙二情報基盤研究開発センター長、平塚昭仁情報システム部長、岡田義広附属図書館付設教材開発センター長、中島直樹病院メディカル・インフォメーションセンター長にお願いすることとしました。

2020年度は、学内の様々な活動におけるCOVID-19の影響を情報技術で極力抑えることが最大のポイントでした。オンライン講義の支援、在宅勤務の支援では内製のシステムに加えてMicrosoft 365のサービスをフルに活用しました。幸い、九州大学は2013年から学生のPC必携化を進め、更に学習支援システムの導入も進めていたため、オンライン講義の全学本格実施の障壁は比較的小さかったと考えています。

併せて、学内の各部局が提供するメールサーバなど各種サービスのクラウド化や利便性・安全性のさらなる向上に対する支援を行ってきました。具体例の1つは、学内組織が独自に運用するメールサービスを全学基本メールサービスへと集約する「全学基本メール組織利用サービス」で、7月より提供開始しました。2021年3月1日時点では13部局14ドメインが本サービスを利用しています。

2017年度に導入したスーパーコンピュータシステムITOの利用は、順調に拡大しており、第5期科学技術基本計画に示された超スマート社会の実現、ならびにAI・ビッグデータ、データ科学及びこれらを活用した研究への本格的なサービスを開始し、我が国の計算科学の基盤(HPCI)を支える中核拠点としての役割を果たしています。特に、重点支援という形でcovid-19関連課題への緊急的な対応により3件の研究支援を行い、学術成果創出にも貢献しています。また、高度利用支援として、利用者が抱える課題の解決を目的としたリモートによるミニキャンプを実施し、利用の高度化による研究成果創出を支援しました。

近年、脅威が益々高まっているサイバー攻撃から学内の情報基盤を守るため、情報セキュリティ対策基本計画に基づき、九大CSIRTを中心とした様々な活動を進めています。新入生に対するサイバーセキュリティ教育（必修科目）や教職員に対するサイバー攻撃に関する訓練およびeラーニングによる利用者のリテラシー向上と注意喚起も継続して行い、本学の情報セキュリティ対策の強化を図っています。また本学KITEの対外接続地点における全学ファイアウォールシステムの機器更新を実施し、今年度より新機種による運用を開始し、ネットワーク対外接続のセキュリティ向上を図りました。さらに事務部門を中心とした学内文書の取扱いやISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)による業務の安定性や安全性の強化にも取り組んでいます。

教育支援に関しては、Moodleとデジタル教科書システムに蓄積される学習履歴を教育改善に利用できるように匿名化した学習履歴を蓄積するデータベースを構築し、4月から運用を開始しました。

本報告は、2020年度の主な活動を報告するとともに、将来のサービス向上に向けての方針や方向性を学内外の利用者に周知することを目的としています。情報統括本部が学内外の利用者の視点に立って、新しい技術を取り入れつつ、安全・安心に、安定して使いやすい情報基盤と情報サービスを提供していけるように、利用者各位の忌憚のないご意見やご要望をいただければ幸いです。